



昭和59年3月15日発行  
兵庫県教育委員会  
社会教育・文化財課  
〒674 明石市魚住町清水字  
立合池の下630-1 魚住分館  
Tel(078) 947-0621

# ひょうごの遺跡

〔題字 教育長 井野辰男書〕

## 発刊によせて

兵庫県教育長 井野 辰男

豊かな自然と歴史的風土に恵まれた兵庫県には、12,000か所をこえる遺跡があります。祖先の残したこれらの埋蔵文化財は、それぞれの地域における人々の生活を、具体的に示しています。この遺跡や遺物は、現在および将来に生きる県民の貴重な共有財産で、わが兵庫県の豊かな文化の発展を図る基礎であります。

このたび県内における多くの発掘調査の内容や、付近に所在する遺跡や遺物を広く紹介し、埋蔵文化財に対する関心をより一層高めていただき、もって地域文化の充実、向上に資するとともに、豊かな県民性の確立に寄与できるようにと願い、『ひょうごの遺跡』を刊行いたします。ささやかな小冊子ではありますが、皆様方のご指導、ご援助によって末永く刊行されることを祈念して、ごあいさついたします。



山垣遺跡全景



## 里長の館跡から多数の木簡

— 山垣遺跡（氷上郡春日町）—

兵庫県教育委員会では1982年4月から9月まで、近畿自動車道舞鶴線の建設工事にともなって、氷上郡春日町棚原で、山垣遺跡の発掘調査を行いました。

1982年12月に遺跡確認のための調査を実施したところ、棚原字山垣で須恵器を多量に含む溝が検出され、土器を転用した硯や、墨で文字を書いた土器があることが確認されました。

このため、1983年4月から1,400㎡の範囲について調査をおこない、堀を周囲にめぐらした奈良時代前半の建物と、それを取りまく溝からなる館跡の一部が明らかになりました。遺跡はさらに西側の調査予定地外に広がり、館跡全体の建物の配置については不明です。

検出された建物跡は1棟で、5間×3間の柱を土中に立てた建物です。柱を立てた穴は約60×80cmの、楕円形状をしています。

SD2の北側では、SD1溝に沿って柱穴が検出され、堀に沿った柵状遺構ではないかと思われます。柱をたてるための穴は、径40cmぐらいの円形で、柱は径10cmほどの小さいものです。建物跡をかこむ堀状の溝は、北、東、南で発掘されました（SD1・SD3）。とくに館の正面になったと思われる南側には、二重の溝がめぐっています。これらの溝は、古墳時代の自然流水路を埋め立てて、再利用して作られたものです。

建物跡も東側の一部は、埋め立てたところに建てられています。SD1溝の中央付近の幅が3mと狭くなっているところには、溝の中央部に2本の太い杭が検出されており（杭間約4m）、おそらく、東の出入口のための橋があったのではないかと考えられます。

SD2は建物跡の北側に検出され、杭が打たれています。溝の中の堆積状況から、柵であったと思われます。

以上のことから南北36.5mの敷地の外側に幅3～7mほどの溝を方形にめぐらした館跡であることが判明しました。遺物の多くは、溝から

の出土で、須恵器・土師器等の土器や木製品が出土しています。

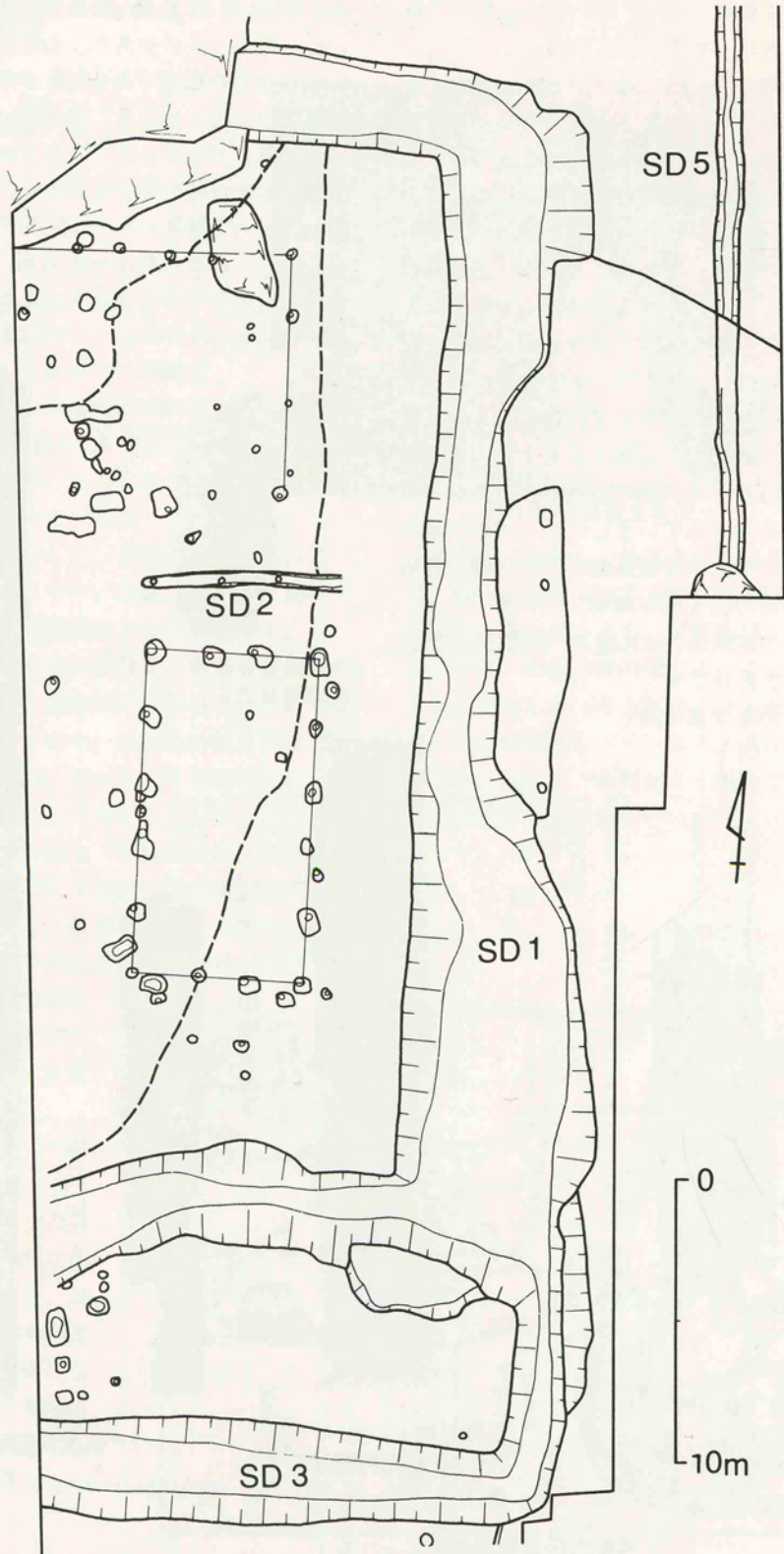


(左) 「春部君廣橋  
神直与」  
□(春カ) 部鷹麻呂 右三人 ×

(右) 「竹田里六人部」  
×

山垣遺跡出土の木簡 (1/3)





山垣遺跡遺構図

円形の硯片数点のほか、坏の蓋を利用した転用硯が多数あり、墨書土器も50数点が出土しています。墨書の多くは「春マ」と読めます。

木製品は数百点にもおよぶ農耕具や、日常生活用具のほか、山垣遺跡を特徴づけるもっとも重要な遺物である21点の木簡が出土しました。

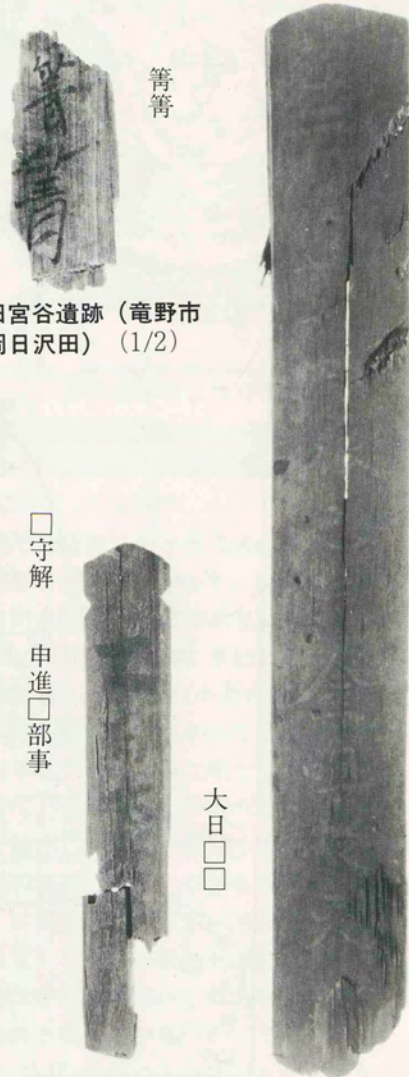
木片に書いたものを、一般に木簡と呼んでいます。木簡の形は、短冊型のものや、長方形の一端を尖らせたり、左右に切り込みを入れたものなどがあり、その内容も命令を伝えたり、記録のためのもの（文書木簡）あるいは、荷物などにつけた荷札や、練習をくり返したもの（習書）などがあります。木簡はこれまで、藤原宮跡、平城宮跡などの、都に関連する遺跡からの出土が大部分を占めていましたが、近年、地方官庁跡、寺院跡、中世集落跡など、各種、各時代の遺跡からの出土例が増加しています。

山垣遺跡の木簡は、付札数点、習書1点以外は、文書木簡が大部分です。大部分を占める文書木簡

のなかには、郡衙から里長等に宛てられたとみられる内容のものがあり、山垣遺跡が「里」における共同的施設であることがうかがわれます。

古代地方官庁のうち、国や郡についてはいくつかの調査例が知られていますが、「里」における調査例はほとんどないため、さらに今後の研究にまつ点も多いのです。

しかし、奈良時代前半ころの「里」における行政組織のようすを明らかにする貴重な資料と考えられます。



沢田宮谷遺跡（竜野市  
神岡日沢田）（1/2）

十二月廿九日辰巳時金□□□

(左) (右)

絹(絹)  
前 負カ

□長石子 正丸水取今丸 一□女稲□□女□  
□中丸 御文丸牛廿丸□□馬丸南日女吉成女□



福成寺遺跡（豊岡市  
福成寺）（1/2）

長尾遺跡  
（佐用郡佐用町長尾）（1/2）

県 下 出 土 の 木 簡

前東代遺跡（姫路市御着）（1/3）



## 遺跡散歩 —山垣遺跡の周辺—

〈交通機関〉

国鉄福知山線黒井、駅前を通りを北へ150m黒井町バス停、神姫バス福知山行 七日市下車、七日市遺跡まで徒歩約10分、二間塚古墳まで約20分

今回は氷上郡春日町山垣遺跡周辺から、ここ数年話題となった遺跡を中心に、いくつかを紹介しましょう。

山垣遺跡の北東に接してひろがる春日・七日市遺跡は、旧石器時代から平安時代にわたる歴代の遺跡で、特に弥生時代から古墳時代初めにかけては、竪穴住居跡や、方形周溝墓（一辺10mほどの溝にかこまれた方形部分に埋葬施設をもつ墳墓）などが

数多く検出されました。遺跡の主要な部分は、水田となっていますが、近畿自動車道に係する部分は、今年発掘調査される予定です。

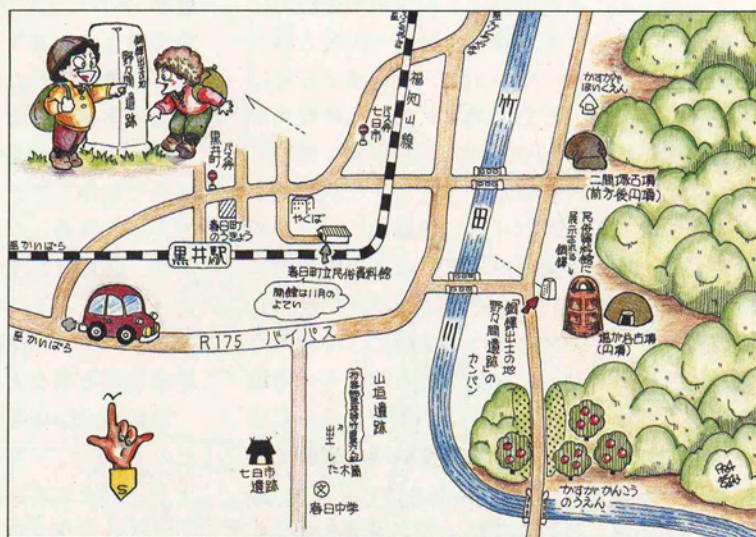
七日市遺跡の東側の丘陵裾部にある野上野の集落の南端には、昭和56年に発見された野々間銅鐸出土地があります。県道沿いに『銅鐸出土の地・野々間遺跡』という大きな標柱があるので、場所は比較的よく判かるでしょう。銅鐸は2個出土し、1号鐸は『外縁付鈕四区袈裟櫛文銅鐸』、2号鐸は『扁平鈕四区袈裟櫛文銅鐸』と呼ばれるものです。銅鐸を埋納した土壇と共に、銅鐸は昭和59年11月に開館予定の春日町歴史民俗資料館（春日町黒井、中央公民館のすぐ隣）に展示されることになっています。

銅鐸出土地のすぐ南東に塩が谷古墳という横穴式石室を持つ古墳があります。一部が開口しているだけで、規模は明らかではありません。民家の裏庭になっているので、見学は土地所有者の迷惑にならないよう注意したいものです。



野々間銅鐸出土状況

銅鐸出土地から、県道を北へ約2kmほど行くと、春日部保育園のすぐ南に兵庫県指定史跡の二間塚古墳があります。全長約34mで、この付近では唯一の前方後円墳です。それほど大きくはありませんが、氷上郡内では山南町丸山1号墳に次ぐ規模をもっています。墳丘には数本の木があるだけで、全形がよく観察できます。内部主体は石室であるらしいのですが、詳細は不明です。



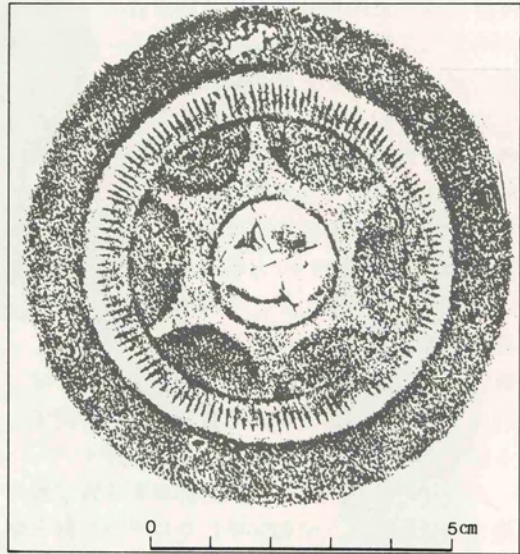
山垣遺跡周辺の遺跡



## 最近の発掘成果から

弥生時代集落跡から内行花文鏡ないこう か もんきょう——たたらだ 鉦田遺跡 (三原郡西淡町) ——

淡路縦貫道の建設工事にさきだち、これまで14ヶ所の地点を調査しています。そのなかで、昭和58年4月から9月まで発掘を行った鉦田遺跡では、弥生時代後期の住居4軒、古墳時代あるいは奈良時代の建物2棟、平安時代の建物3棟などが掘りだされました。出土品は土器をはじめ石器や鉄製品がありますが、そのほか弥生時代から奈良時代まで使われた水路の近くで銅鏡が見つかりました。銅鏡の形や文様などから、弥生時代終わりから古墳時代の初めころのものです。ふつう銅鏡は埋葬の際に死者とともに納めることが多いのですが、この場合は村のなかから発見されています。村のなかの儀式やお祭りに使われたのではないかと考えられます。



鉦田遺跡出土内行花文鏡

## 発掘だより

兵庫県教育委員会が、3月末日ごろまで県下の各地で調査をしている7ヶ所の遺跡を紹介します。

淡路では縦貫自動車関係洲本インターチェンジ予定地内の、洲本市納にある寺中西遺跡で、予察調査の段階に弥生時代の竪穴住居跡と溝を発見し、調査を続けています。特に溝は方形にめぐるので墓(方形周溝墓)になる可能性が高く、居住区とあわせ墓地の調査成果も期待でき、弥生時代の村が復元できるような状況です。

播磨では太子竜野バイパス建設地内の二つの遺跡です。福田片岡遺跡は竜野市誉田町福田に所在する、弥生時代から中世にかけての歴代(複合)遺跡です。注目すべき遺構に、中世の有力者の住居(館跡)と筑紫大道と考えられる道路跡があります。もう一つは、福田より少し南西へ行行った同市揖保町にある宝林寺北遺跡です。現在までの調査で、中世の柱を土中に立てた(掘立柱)建物跡と石組み井戸、方形に溝がめぐ

墓が見つかっています。

丹波では近畿自動車道舞鶴線予定地内の4ヶ所の遺跡を発掘しています。市島町側から水上郡春日町多利にある松の本古墳群、同じく多利遺跡、春日町東中河津館、多紀郡西紀町上板井板井遺跡とつづきます。松の本古墳群は6世紀前半ころに築造された10基からなる円墳群で、埋葬施設は本棺と石を箱形に組んだ石棺が見つかり、注目されています。河津館は、濠と土べい(土塁)をもつ中世の河津氏の館跡です。板井遺跡は中世の集落跡と考えられ、現在、掘立柱建物跡と溝などが見つかり、注目されています。

原始・古代・中世の人々はどんな生活をしていただのでしょうか。一度発掘調査の現場を訪ねてみて下さい。そして、調査員にいろいろと質問をぶつけてみて下さい。



## 昭和58年度 発掘調査一覧表（県教委実施分）

	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積(㎡)	担当者	備考
1	原田西遺跡	伊丹市岩屋	下水処理場建設	5・16～9・6	2,700	森内・別府	弥生時代中期の方形周溝墓群の他、前期の土壇。
2	青野ダム A K119	三田市末東	ダム建設	5・30～10・21	644	吉田・岡田	奈良末～平安初頭の窯跡6基。
3	〃 A W50	〃 岡ノ谷	〃	11・21～継続	957	〃	平安時代の集落跡。江戸期の井戸。
4	稲田城跡	〃 下深田	河川改修	10・24～11・18	1,150	〃	外濠跡から近世遺物。
5	下所遺跡	〃	道路拡幅	1・17～1・27	74	〃	古墳時代の柱穴群。
6	玉津田中遺跡	神戸市西区玉津町田中	土地区画整理	4・18～継続	3,770	山本・山下	弥生時代前期の竪穴住居址の他、中期の水田跡や壺棺。59年に継続
※7	黒石山古墳群	加東郡滝野町河高	工業団地建設	5・23～10・29	—	深井 郡教委	5世紀末～7世紀初めの粘土槨を含む古墳3基。
※8	妙見山古墳群	〃	〃	10・7～10・31	—		6世紀初めの方墳2基。
9	前東代遺跡	姫路市御国野町	道路建設	6・11～9・13	886	西口(和) 水口	奈良～平安時代の自然流路から木簡3点。
10	中井古墳群	竜野市竜野町中井	高速道路建設	5・25～10・4	—	井守・渡辺	古墳時代後期の横穴式石室をもつ円墳2基。1号墳から三累環頭大刀。
11	中井鴨池窯跡	〃	〃	7・27～9・22	400	〃	6世紀中葉の窯跡。灰原のみ調査。
12	福田片岡遺跡	竜野市譽田町福田	国道バイパス建設	4・11～継続	6,700	岡崎・種定 西口(主)	弥生時代中期の住居址と中世の館跡。鎌倉時代の筑紫大道。59年に継続
13	養久山古墳群	〃 揖西町佐江	高速道路建設	4・18～5・23	—	井守・渡辺	6世紀後半の円墳1基。
14	宝林寺北遺跡	〃 揖保町門前	国道バイパス建設	11・7～継続	3,100	渡辺 市教委	鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・墳墓からなる集落跡。
15	小犬丸遺跡	〃 揖西町小犬丸	道路拡幅	12・19～	720	森内・別府	平安時代の瓦葺建物・掘立柱建物・井戸からなる駅家跡か。
16	長尾遺跡	佐用郡佐用町長尾	〃	12・7～	930	西口(和) 水口	古墳時代の住居址や長尾庵寺に関連する木簡3点。
17	鉦田遺跡	三原郡西淡町鉦	高速道路建設	4・12～9・15	9,250	小川・吉識 岸本	弥生時代後期の住居跡の他、奈良～平安時代の掘立柱建物。小形内行花文鏡出土。
18	谷町筋遺跡	〃	〃	9・17～中断	7,400	〃	調査中断し59年に継続。
19	叶堂城跡	〃 〃 松帆古津路	河川改修	9・10～12・6	1,367	西口(和) 水口	室町時代の石垣と堀跡の調査。59年に継続
20	森遺跡	洲本市上内膳里	高速道路建設	1・5～2・17	2,000	小川・吉識 岸本	古墳時代後期の竪穴住居址10棟。
21	寺中遺跡	〃 納	〃	2・4～継続	3,500	〃	弥生時代中期末～後期の住居址群。59年に継続



	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	担当者	備考
22	西木ノ部遺跡	多紀郡西紀町 観音寺の坪	高速道路建設	4・18～9・14	1,250	池田・村上(泰) 市饗	布留期の住居址群と掘立柱建物。59年に継続
23	沢ノ浦坪古墳群	〃 〃 沢ノ浦坪	〃	10・11～継続	—	〃	6世紀後半の横穴式石室をもつ古墳2基。須恵質埴輪形陶棺出土。
24	上板井古墳群	〃 〃 友永	〃	10・11～ 〃	—	〃	割竹形木棺・箱式石棺を主体とする古墳2基。鎌倉後半の経塚と中世墓群。
25	板井遺跡	〃 〃 寺が谷	〃	12・12～ 〃	2,500	〃	鎌倉時代の柱穴群
26	山垣遺跡	永上郡春日町 棚原	〃	4・18～9・14	1,460	加古・平田	堀をめぐる掘立柱建物群からなる里長の館跡。木簡多数出土。
27	野村遺跡	〃 〃 〃	〃	8・2～9・14	1,460	〃	古墳時代後期の自然流路。
28	多利古墳群	〃 〃 多利	〃	8・22～10・30	—	輔老 村上(賢)	4基の古墳のうち1基のみ調査。6世紀初めの木棺直葬墳。
29	多利岡中遺跡 他	〃 〃 〃	〃	9・19～3・6	5,230	加古・平田	鎌倉時代の集落跡。多量の副葬品をもつ土坑墓。
30	多利松の本古墳群	〃 〃 〃	〃	10・24～3・31	—	井守 村上(泰)	6世紀前半の木棺直葬墳8基。箱式石棺1基。
31	喜多中世墓群	〃 市島町 喜多	〃	4・11～8・10	570	輔老 村上(賢)	45基の中世墓群。(鎌倉時代末～室町時代初期)
32	河津館跡	〃 春日町	〃	1・23～継続	1,000	〃	中世城館。59年に継続
33	十二所経塚・ 中世墓群	養父郡養父町 十二所	地すべり対策	4・13～6・11	814	西口(和) 水口	経塚2基と中世墓39基。(平安時代～室町時代)
* 34	田多地古墳群	出石郡出石町 田多地	土取り	9・19～11・15	—	森内・別府	国庫補助事業。木棺・箱式石棺を主体部にする古墳と平安時代の経塚2基。

(※事業主体は郡教委もしくは町教委。確認調査は除く。)

#### — ロメモ 埋蔵文化財とは —

文化財を守るために文化財保護法という法律があり、そのなかで埋蔵文化財とは、「土地に埋蔵されている文化財をいう」としております。具体的には貝塚・集落跡・古墳・都城跡などはもちろん、遺物散布地・遺物包含地などをさし、また、それらの遺跡に埋蔵されている石器・木器・金属器などの遺物を含めています。

埋蔵文化財はほかの文化財と異なり、土地に埋蔵されているものであって、土地と不可分の関係にあります。そのため開発などにあたって事業者や土地の所有者などとの間で、遺跡の保存や取扱いについて十分に話し合う必要があります。

#### 編集後記

兵庫県教育委員会が懸案としていた埋蔵文化財行政の現状をお知らせする小冊子が、ようやく出来あがりました。

県下の発掘調査は、一覧表以外にも市町教育委員会などが行っていますので、その件数は58年度だけでも200件以上におよんでいます。

そうした中でも、今年は重要な発見が続き、紹介しました山垣遺跡などは全国的にも注目されている遺跡の一つでしょう。

「発掘だより」にもふれています。現在も各地で発掘調査が継続されていますので、是非、一度見学されたいかがでしょうか。